

2015年3月6日

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

成人のスポーツライフに関する調査報告書「スポーツライフ・データ 2014」

東京オリンピック・パラリンピック「競技場での観戦希望率」は、 オリンピック 39.0%！！ パラリンピック 18.4%！！

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区赤坂 理事長：小野清子 以下：SSF）は、全国の20歳以上を対象にした『スポーツライフに関する調査』を取りまとめました。開催が決定した2020年の東京オリンピック・パラリンピックを、国民がどう捉えているかを図るべく、調査時（2014年5月）における観戦希望などについて調査しました。

SSFでは、本調査を1992年から隔年で実施し、「実施頻度」、「実施時間」や「運動強度」から見た「運動・スポーツ実施レベル」をはじめ、スポーツ施設やスポーツボランティア、好きなスポーツ選手などが国成人のスポーツライフの現状を明らかにしています。このたび最新の報告書となる「スポーツライフ・データ 2014」を2015年3月9日に刊行いたします。

ポイント

1) 東京オリンピック・パラリンピックの競技場での観戦希望率は、

オリンピック	39.0%	パラリンピック	18.4%
--------	-------	---------	-------

2) 東京オリンピック・パラリンピックの競技会場で観戦したい種目(希望率)

■オリンピック(全体 n=778)		■パラリンピック(全体 n=359)	
1位 サッカー	47.8%	1位 車いすバスケットボール	42.3%
2位 開会式	47.0%	2位 車いすテニス	40.7%
3位 体操	41.1%	3位 陸上競技	37.0%

【担当者コメント】

今回の調査では、東京オリンピック・パラリンピックの競技場での観戦希望率は、オリンピックが39.0%、パラリンピックが18.4%であった。いずれも50歳代の観戦希望率が最も高い。種目別に見ると、男性はサッカー(オリンピック)、車いすバスケットボール(パラリンピック)、女性は体操(オリンピック)、車いすテニス(パラリンピック)の観戦希望率が高いという特徴がある。また、今回の調査結果から開会式に対する注目度も高いことが確認できた。

招致委員会がIOCに提出した立候補ファイルには、オリンピック・パラリンピックの全競技会場を観客で満員にするとある。そのためには、2020年までの5年間でオリンピック・パラリンピックの大会機運を全国規模でどのように盛り上げていくのか、さらにチケットの販売方法や価格設定などに関する確かなマーケティング方策の検討が課題となる。スポーツには「する」「みる」「ささえる」の3つの活動があるが、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機として、「みる」スポーツの普及・振興を具体的に検討していくことも必要である。

【笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 研究員 山田大輔】

◆この件に関するお問い合わせ先◆

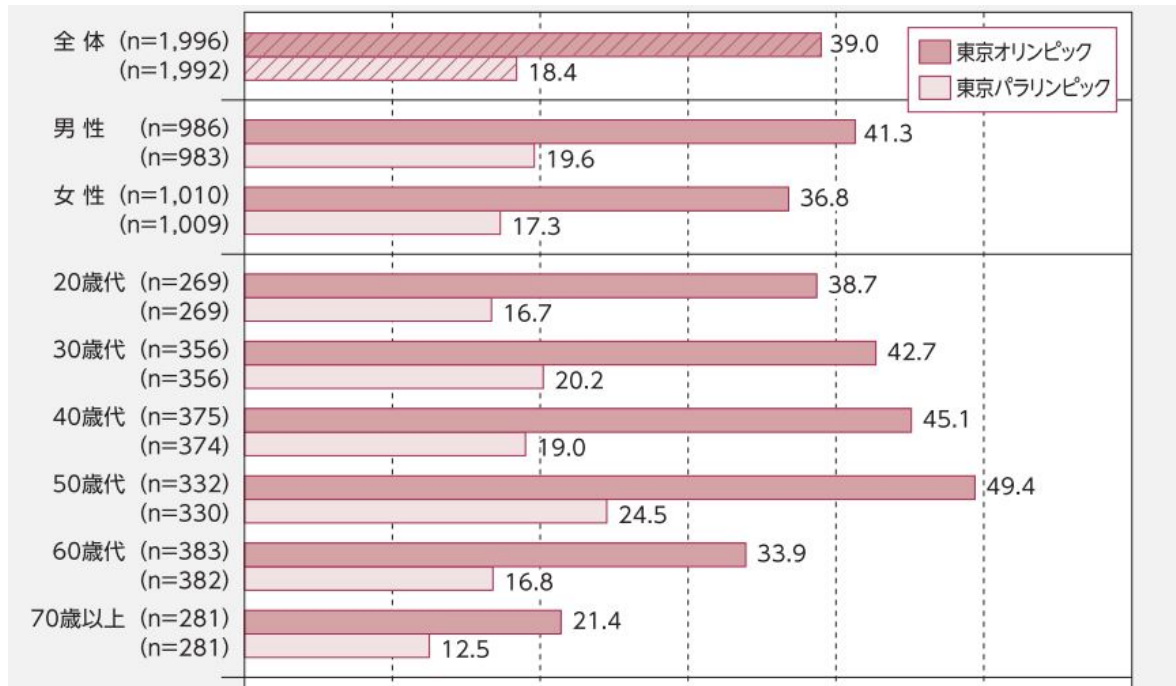
笹川スポーツ財団 研究調査グループ 藤原・山田・武長・工藤

TEL: 03-5545-3303 data@ssf.or.jp

1) 東京オリンピック・パラリンピックの競技場での観戦希望率は、オリンピック 39.0%！！パラリンピック 18.4%！！

オリンピックを競技場で観戦したいと回答した人は全体で39.0%であった。性別にみると男性は41.3%、女性は36.8%となっている。年代別では、50歳代が49.4%と最も高く、次いで40歳代45.1%、30歳代42.7%と続いている。同じ調査で、パラリンピックを競技場で観戦したいと回答した人は全体で18.4%であった。性別にみると男性19.6%、女性17.3%となっている。年代別では、50歳代が最も高く24.5%、続いて30歳代が20.2%、40歳代が19.0%となっている。

【図A-1】東京オリンピック・パラリンピック直接観戦希望率（全体・性別・年代別）



2) 東京オリンピック・パラリンピックの競技会場で観戦したい種目1位は、オリンピックはサッカー！！パラリンピックは車椅子バスケットボール！！

オリンピック・パラリンピックを競技場で直接観戦したいという人に対して、どの種目を観たいかを調査した（開会式・閉会式を含む）。全体をみると、オリンピックでは「サッカー」が47.8%と最も高く、次いで「開会式」47.0%、「体操」41.1%、「陸上競技」36.9%、「水泳」32.5%となっている。性別にみると、男性では、1位「サッカー」54.7%、2位「陸上競技」43.3%、3位「開会式」38.2%となり、女性では、1位「開会式」56.7%、2位「体操」45.7%、3位「バレーボール」40.6%である。

【表A-1】東京オリンピックにおける種目別の直接観戦希望率（全体・性別：複数回答）（上位10種目）

全体 (n=778)			男性 (n=406)			女性 (n=372)		
順位	種目	希望率 (%)	順位	種目	希望率 (%)	順位	種目	希望率 (%)
1	サッカー	47.8	1	サッカー	54.7	1	開会式	56.7
2	開会式	47.0	2	陸上競技	43.3	2	体操	45.7
3	体操	41.1	3	開会式	38.2	3	バレーボール	40.6
4	陸上競技	36.9	4	体操	36.9	4	サッカー	40.3
5	水泳	32.5	5	水泳	28.8	5	水泳	36.6
6	バレーボール	30.1	6	柔道	23.2	6	陸上競技	29.8
7	閉会式	20.8	7	バレーボール	20.4	7	閉会式	24.5
8	柔道	19.3	8	閉会式	17.5	8	テニス	18.3
9	テニス	16.3	9	ゴルフ	15.3	9	柔道	15.1
10	バスケットボール	11.6	10	テニス	14.5	10	卓球	11.6

注) 開会式・閉会式を含む

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

パラリンピックでは、全体で「車椅子バスケットボール」が42.3%と最も高い値を示し、続いて「車いすテニス」40.7%で2位。続いて「陸上競技」37.0%、「開会式」35.9%、「水泳」27.3%となっている(表A-2)。性別にみると、男性は、1位「車椅子バスケットボール」45.5%、2位「車いすテニス」40.1%、同率で「陸上競技」、女性は1位「車いすテニス」41.3%、2位「車椅子バスケットボール」39.0%、3位「開会式」37.2%となっている。

【表A-2】東京パラリンピックにおける種目別の直接観戦希望率(全体・性別:複数回答)(上位10種目)

全 体 (n=359)			男 性 (n=187)			女 性 (n=172)		
順位	種 目	希望率(%)	順位	種 目	希望率(%)	順位	種 目	希望率(%)
1	車いすバスケットボール ^{※1}	42.3	1	車いすバスケットボール ^{※1}	45.5	1	車いすテニス	41.3
2	車いすテニス	40.7	2	車いすテニス	40.1	2	車いすバスケットボール ^{※1}	39.0
3	陸上競技	37.0		陸上競技	40.1	3	開会式	37.2
4	開会式	35.9	4	開会式	34.8	4	陸上競技	33.7
5	水泳	27.3	5	水泳	24.1	5	水泳	30.8
6	閉会式	18.4	6	閉会式	17.1	6	閉会式	19.8
7	視覚障害者5人制サッカー	13.1	7	柔道	16.6	7	視覚障害者5人制サッカー	11.6
8	自転車競技	12.0	8	視覚障害者5人制サッカー	14.4	8	卓球	11.0
	柔道	12.0	9	自転車競技	14.4	9	自転車競技	9.3
10	卓球	10.0	10	アーチェリー	10.2	10	柔道	7.0

注) 開会式・閉会式を含む

※1 正式表記は「車椅子バスケットボール」(本文中では正式表記を用いた)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

【調査概要】

調査内容: 運動・スポーツ実施状況、運動・スポーツ施設、スポーツクラブ・同好会・チームへの加入状況、スポーツ観戦、スポーツボランティア、スポーツ指導、日常生活習慣・健康、2020年東京

オリンピック・パラリンピック 他

調査対象: 全国の市区町村に居住する満20歳以上の男女2,000人(男性:989人、女性1,011人)

地点数: 市部191、郡部19(計210地点)

調査時期: 2014年5月23日~6月15日

SSFスポーツライフ調査委員会:

委員長	海老原 修	横浜国立大学 教育人間科学部 教授
委員	小林 優子	東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 博士課程
委員	澤井 和彦	桜美林大学 健康福祉学群 准教授
委員	高峰 修	明治大学 政治経済学部 准教授
委員	仲澤 眞	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 准教授
委員	野井 真吾	日本体育大学 体育学部 教授
委員	松尾 哲矢	立教大学 コミュニティ福祉学部 教授
委員	渡邊 一利	笹川スポーツ財団 専務理事